

第38回ちゅうしんコンサートへ抽選で400名様ご招待

オISTRAフ弦楽四重奏団

《21世紀ロシアの新星》

The David Oistrakh
String Quartet

アンドレイ・バラノフ(ヴァイオリン)
Andrey Baranov, Violin
ロディオン・ペトロフ(ヴァイオリン)
Rodion Petrov, Violin
フェドル・ペルーギン(ヴィオラ)
Fedor Belugin, Viola
アレクセイ・ジリーン(チェロ)
Alexey Zhilin, Violoncello



オISTRAフ弦楽四重奏団は、2012年、20世紀の傑出したヴァイオリン一家・オISTRAフ家よりその名を使用する榮譽を受けて結成。以降、フランス、ベルギー、スイス、スウェーデン、ノルウェー、デンマークなどヨーロッパ諸国、また地元ロシア、そして各国の重要なホールにて頻繁に演奏活動を行なっている。また、これまでにエリソ・ヴィルサラゼ、エドワード・ブルナー、リアナ・イサカーゼ、イリーナ・カンディンスカヤ、アレクサンダー・ボンドリアンスキー、ボリス・アントリアノフらと共演。

第1ヴァイオリンのアンドレイ・バラノフは、デヴィッド・オISTRAフがエリザベート王妃音楽コンクールで優勝してから75年後、2012年の同コンクールにて優勝。ロンドン響、仙台フィル、サンクトペテルブルク・フィル、ブリュッセル・フィル、ベルギー国立管、チャイコフスキー、モスクワ放響、ルクセンブルク・フィル、モントリオール響、マリンスキー歌劇場管、ムジークアルテナ等の有数のオーケストラと共演も果たしている。

第2ヴァイオリンのロディオン・ペトロフは、マドリッドのソフィア高等音楽院、そしてモスクワ音楽院を卒業。ロドルフォ・リビツァー国際、パガニーニ国際など多数のコンクールにおいて上位入賞を果たす。世界の主要ホールで演奏する他、各地の音楽祭にも多数出演。

ヴィオラのフェドル・ペルーギンもまた、多数のコンクールで入賞を果たしている他、モスクワ音楽院やグネーシン音楽アカデミーでも教鞭をとるなど国際的に活躍している。

アレクセイ・ジリーンはロシアにおける彼の世代を代表するチェリストである。ブラームス国際コンクール第3位など数々のコンクールで上位入賞を果たし、ソリストとして各国のオーケストラ等に頻繁に招かれている。現在サンクトペテルブルク音楽院にて後進の指導にもあたっている。

オISTRAフ弦楽四重奏団は2016年に初の日本ツアーを行い、鮮烈な印象を残した。チャイコフスキー、ショスタコーヴィチの作品を取めた初のCDをリリースし好評を得た。17年12月には第2弾CDも発売。<http://www.oistrakhquartet.com/>

2018年10月12日(金) 第1部/13:00~15:00 第2部/16:00~18:00

出演 オISTRAフ弦楽四重奏団
The David Oistrakh String Quartet

Program

ハイドン：弦楽四重奏曲 第38番 変ホ長調 Op.33-2/Hob.Ⅲ-38「冗談」

ボロディン：弦楽四重奏曲 第2番 ニ長調

メンデルスゾーン：弦楽四重奏曲 第6番 へ長調 Op.80

- 会場 中日信用金庫本店2F「ちゅうしんホール」
- 主催 中日信用金庫
- 共催 東海地区しんきん経営者協議会
- 協力 ルンデ

応募方法

●郵便によるお申込の場合

はがきに、①郵便番号②住所③氏名④年齢⑤職業⑥ご希望の部(1部又は2部)
⑦ご希望人数(お一人様又はペア)をご記入のうえ、下記宛にご郵送ください。

【宛先】〒462-0844 名古屋市北区清水二丁目9番5号
中日信用金庫 本店内「コンサート事務局」係
TEL.(052)913-9112

●インターネットによるお申込の場合

当金庫ホームページアドレスにアクセスしてお申込ください。

第38回ちゅうしんコンサート 検索

<http://www.shinkin.co.jp/chunichi/>

ご注意

- ・締切日は、9月7日(金)です。(郵送の場合、当日消印有効)
- ・厳正な抽選のうえ、各部200名様をご招待いたします。
- ・ご当選者の発表はチケットの発送をもってかえさせていただきます。
- ・ご記入いただいた個人情報は、今回の応募における抽選以外には使用いたしません。

— であい、ふれあい、おつき愛 —
 **中日信用金庫**
<http://www.shinkin.co.jp/chunichi/>



ハッチョウトンボ
(ハチマシ) Nemobryonia cyathina

ちゅうしんの環境キャラクター「ハッチョウトンボ」
ハッチョウトンボは、体長1.8cm(1円玉の中に納まる大きさ)ほどの日本で一番小さいトンボです。名前は江戸時代の本草学者が「矢田鉄砲場八丁目(今の名古屋市東区矢田川付近)」で発見したことに因みます。

